

Architect magazine

Hatsushi Mukaida

向田 八司 | 大工 親方

特集：鯰組初の単独展示会
“鯰展（なますてん）”レポート

namazu BIYORI

NO.16



「向田さんの仕事は美しい、そして早い。」鮨組の岸本が尊敬する大工が向田だ。鮨組を設立し、若い大工の育成を考えた岸本が向田の入社を熱望した。今では鮨組の親方として若い大工たちの指導役はもちろん、精神的な支柱にもなっている。そんな向田親方にも若く悩み多き時代があったに違いない。職務履歴を元に、若いころの親方を追った。

一向田さんにも若いころ大工として葛藤して悩んだ時期がありましたか？

最初の会社には5人の同期がいました。こんなに人数が多いと、良い現場に行ける者とそうでない者が現れる、私は後者だったんです。同期が良い現場に出ていると悔しくて…同期が新築の現場で頑張っているのに、自分はベンキ塗りや修理などとしていて、俺はここで大工になれるのかと日々自問自答しました。

ーそうして水沢工務店に入ることになったんですね。

そうですね。ちょうど時代はバブルで、良い先生（設計者）のことを建築業界では“先生”といいますと仕事をさせて頂きました。ここでは、住宅、社寺、料亭が多くできました。物件は新建築などの雑誌に載るようなものばかりで「君の最高の仕事をしなさい」と私に言った親方も、この会社にいました。私自身がひとつの大きな歯車になり、頑張った会社です。



ーその後、藤森工務店に移ったのはどうですか？

水沢工務店で文化財の茶室の修復をやらせてもらったのがきっかけです。茶室には丸太を使うのですが、丸太を一本一本自分の目で見て、どこで使うかを振り分けるというのが面白くて。すっかり茶室の魅力に取り憑かれました。狭い世界ですし、長年お世話になった工務店を去ることに悩みましたが、自分の人生なので自分で決めなければならないなど。茶室案件をより多く持っている藤森工務店への入社を決めました。藤森工務店に移ってから、水沢工務店と同じ現場に入る仕事があり、その現場が私の大工としての大舞台となりました。その建物は、居間の大きな窓から茶室を眺める邸宅でした。私は一流という言葉が苦手なのですが、この邸宅の上棟式のあいさつで建主が「私も一流の家を持つことができました」と言ったんです。そこで「ああ、私達がやっている仕事は一流の仕事なんだな」と気が付きました。職人は毎日同じことを繰り返すだけなので、これが一流だと考えたこともなかったけれど、お客様にとっては違うのだな。お客様の視点が見えた瞬間でした。



ー着実にステップアップを重ねていったように見えますが、色々悩みもあったんですね。向田さんが大工として成長を感じた経験やきっかけがあれば教えてください。

同じ会社のよその現場に手伝いに行った時に「お前これやれよ」と言われて、言われたことができるようになった時、形になった時、そういう経験が重なっていった時に「あれ？」と思いました。

ーなるほど、初めて親方として指揮した現場のことを教えてください。

初めて親方として現場を仕切ったのが、鮨組でもお稽古をしている遠州流茶道の市ヶ谷の稽古場（茶室）です。ここでは仕事より人使いの難しさを知りました。自分で作った所で稽古ができるならいいじゃないかと、その縁をきっかけにお茶を始めることになりました。そしたらそこに若い大工さんの岸本さんがお稽古に来っていて、それが鮨組へのご縁になるわけです。

ー長い大工人生の中で忘れない出会いや印象的なエピソードはありますか？

最初に入った佐藤秀工務店、大工スピリットをここで学びました。ここには鬼職長と呼ばれるくらい怖い人がいて…後ろに立たれたら釘が打てない！あの威圧感を出せる人はそうないと思います。佐藤秀工務店を去って20年後くらいですかね、私が佐藤秀工務店の現場に手伝いで行った時に、なんとその鬼職長が顧問になっていて、その現場にまわってきたんです。私の姿を見ると「おい、あいつうちに居たやつじゃないか？」と声をかけてくれて。私はまさかこのおじいさんが鬼職長だと気が付かなかつたのに、向こうは私のことを覚えてくれたんです。「俺ももう70歳だ、お互いに頑張ろう」と言ってくれて、私もまだまだ

向田親方の職務履歴

19歳	盛岡専修職業訓練校建築科にて大工の勉強をする
20歳	株佐藤秀工務店入社
23歳	株水沢工務店入社
37歳	株藤森工務店入社
58歳	鮨組入社

頑張らないとな、と思いました。…しかし、3年しか同じ会社に居なかった私のことを覚えていたんだから、よっぽど私は出来が悪かったのでしょうか（笑）。



ー最後に、これから大工を目指す若者にメッセージをおねがいします。

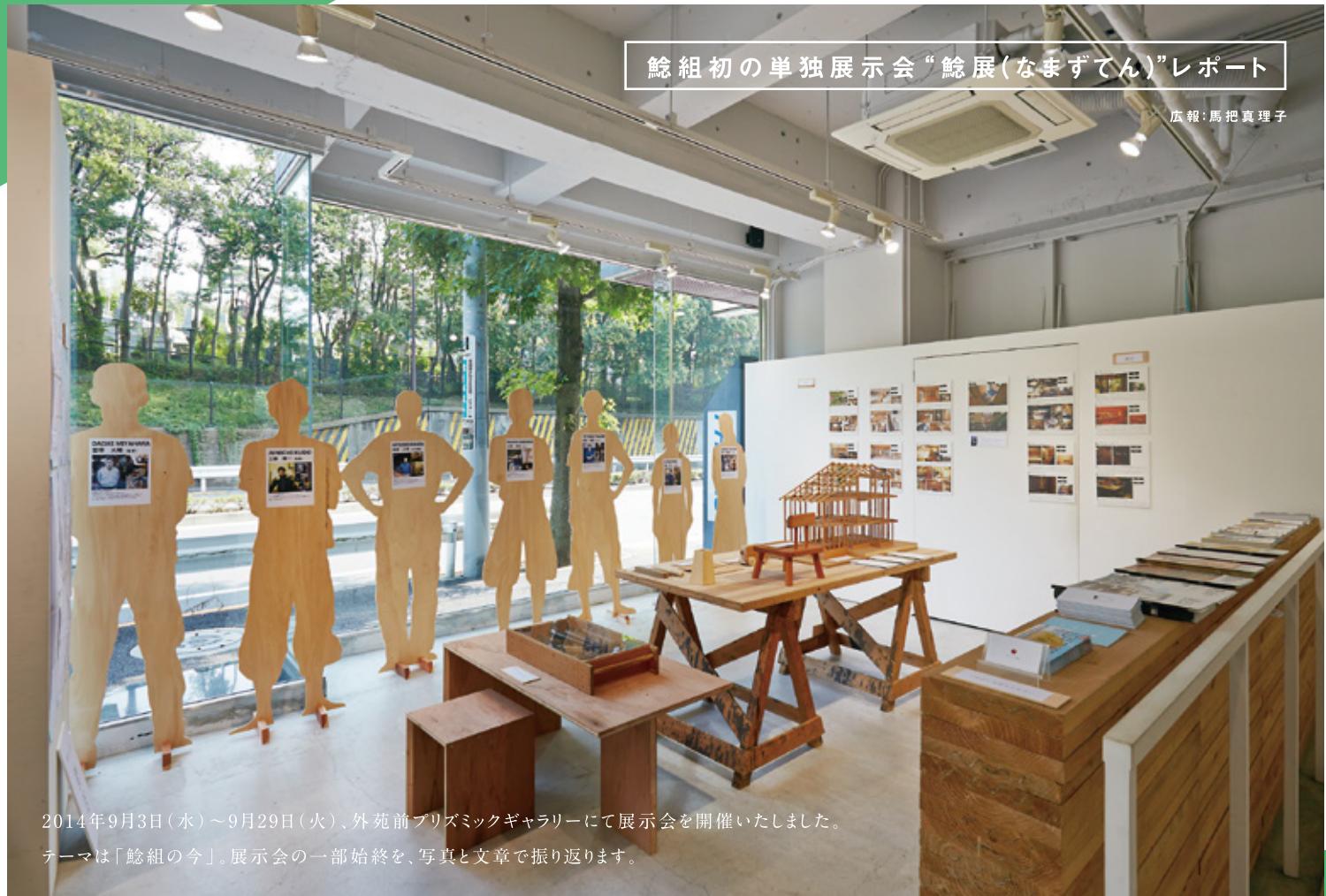
経験を避けては通れないということです。大工としてももちろん教えることは教えますが、昔みたいに掘ったり、複雑な仕事は減ってきてています。職人としては「え!これあり?!」というところもあるけど、新鮮にも感じることもあります。私もそういう意味で今の家づくりを経験させてもらっている最中です。うちの大工たちも、経験を通じて少しづつ動けるようになってきています。櫻井（鮨組の若手大工）だって昔とは違う、差金の持ち方もできなかったのに、それなりになってきた。それは私が手取り足取り教えたのではなくて、経験が形になってきたということだと思います。大工の仕事の良い所は、自分のやったことが素直に形になるとこです。ただ、分かる人が見ると、完成した家を見た時にほんとうの仕事と切りっぱなしの仕事では全然違う。見た目が一緒でも身がぜんぜん違う。そこを高めていくのが経験ですので、皆さんには頑張って欲しいと思います。

ーありがとうございました。

(インタビュアー／馬把 真理子)

鯨組初の単独展示会“鯨展(なますてん)”レポート

広報:馬把真理子



2014年9月3日(水)～9月29日(火)、外苑前プリズミックギャラリーにて展示会を開催いたしました。

テーマは「鯨組の今」。展示会の一部始終を、写真と文章で振り返ります。

「一言で工務店と言ってしまえばその
のですが、そんな枠からちょっとみ出
した感じが面白い鯨組の活動の様子
が展示されています。」

小嶋友子建築事務所／小嶋友子

鯨組とは一体何なのか、私達はずっと考え続けています。鯨組代表の岸本耕は、大学で建築を学び、当たり前のように建築家を志していました。しかし、在学中に企画や研究の分野でも活躍した大工棟梁田中文男氏の存在を知ります。「建築の仕事は、設計だけじゃない」ということに気がついた岸本は大工の道を志しました。鯨組が行っている「設計から大工まで」という家づくりのスタイルと、大工が“暮らし”を考えるという活動の原点はこの出会いにあります。

ご挨拶

本日は鯨展にご来場いただき
誠にありがとうございます。

「設計事務所でも工務店でもない
新しいスタイルをつくろう」
と言って始まったのが鯨組です。

答えの無いものを求めて
苦労していますが、
それ故に楽しいわけです。

現時点できえつつある鯨の輪郭を、
このタイミングで一度
表現しておきたいと思います。

今の鯨組を感じていただけると幸いです。

鯨組代表 岸本耕

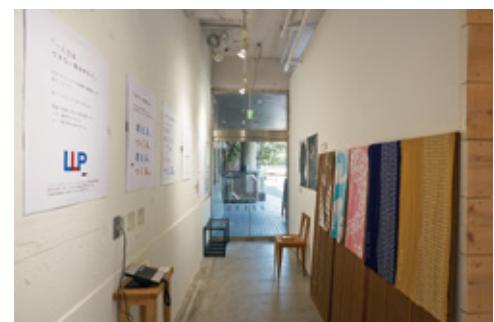


展示物の中に、鯨組がこれまで作ってきた住宅や店舗をまとめたものがあります。ここには必ず、お客様に引き渡した際のおよその金額を記入しています。どのような住宅がどれくらいの金額なるのか、訪れた人がイメージできるということを重視いたしました。

設計事務所との仕事のコーナーでは、本展示会のご縁をくださった川辺直哉建築設計事務所との事例と、桜設計集団との事例を紹介しています。川辺直哉建築設計事務所の特徴の一つに高いデザイン性があります。そのデザインを実現するために、複雑な木組みや、大工の技術を必要とする箇所がありました。桜設計集団については、共に取り組んでいた「桜×鯨(さくらなます)」標準化の家の案件の紹介をさせていただきました。2014年10月現在、第3段も進行中。「桜×鯨」の取り組みはこれからも随時情報発信していきます。



この文章は、展示会の冒頭に岸本が寄せたものです。鯨組のスタッフは、指導役の大工親方向田を除き、在籍者のほとんどが20代30代の若手です。皆同じように「設計から大工まで」という目標に共感し、ここに集まりました。鯨展では、そんな鯨組の人を感じてもらうために、等身大の木製パネルを作成いたしました。



9月3日(水)オープニングパーティ

展示会開催初日のこの日、オープニングパーティを行ないました。この日は、鮎組の姉妹事業でもあるなんてんcafeのスタッフたちが、腕によりをかけたフインガーフードをご用意いたしました。なんてんcafeは、食卓から暮らしを考えるをテーマに、美味しい食卓を提供しています。パーティ当日は、なんてんcafeの元スタッフが出張ネルドリップコーヒーを用意したり、常連のお客様が自主的に手伝ってくださったり、なんてんcafeのご縁が生んだ素敵な食卓になりました。鮎日和や、インターネットなどを通じてお越しいただいた初めての方、協力会社の方や鮎組で家を建ててくださった方、たくさんの方とお会いすることができました。

トークイベント

期間中の土曜日は、鮎組のスタッフによるトークイベントを行ないました。大工トーク、監督トーク、広報トーク、建主トークという4つのテーマで毎週お話をいたしました。台本がないトークイベント、普段人前で話すことのない弊社大工、監督たちはやや硬い表情での登場となりました。しかし参加いただいた方の真剣な表情と質問に、徐々に議論も白熱。このような機会はまた設けていきたいと思います。広報トークでは、フォトグラファーの三嶋氏



をゲストにお呼びして来年の鮎日和について大激論。思わず岸本も止めに入るほど盛り上りがありました。建主トークでは「職人と作る木の賃貸」のオーナー、前田夫妻がゲストで登場。お客様としての視点で、貴重なお話を頂きました。

鮎展を開催して…

鮎組初めての展示会、会期中の1ヶ月は慌ただしくも盛り沢山に過ぎてゆきました。普段はお話ししないようなお客様と話ができたこと、お久しぶりの

方との再会、協力会社の方、同業者の方、改めて今までの出会いに感謝するきっかけとなった展示会となりました。鮎組の活動はこれからも続いていきます。設計事務所でも工務店でもない新しいスタイルの暮らしづくりを目指して。

SPECIAL THANKS

川辺直哉様・川辺明伸様・内藤昇様・前田丈志様・前田真由美様・三嶋義秀様・安井昇様・鮎展にご協力くださいました全ての建主様・プリズミックギャラリー様

参加者募集

秋の建築晩餐会 神楽坂「カド」



鯰組で設計施工させていただいた神楽坂の和食処「カド」。

鯰組は今まで数々の店舗物件を手がけさせていただきました。

こちらのお店は「長く使いたい」というオーナーの強い希望で、古民家を基礎から改修しました。神楽坂らしいスッキリとした外観で、土間スペースでは立ち飲みを楽しむこともできる、個性的なお店です。当日は鯰組代表の岸本耕が、設計施工時の裏話や、お店の中の建築的な見どころをご紹介いたします。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、建築についてお話ししませんか?ご参加お待ちしております。

日時：11月12日水曜日 19:00～21:00

会費：6,000円+税（コース料理・ドリンク飲み放題）

場所：神楽坂カド（東京都新宿区赤城元町1-32）

集合場所：現地集合・現地解散

お申し込み：鯰組馬把（まが）真理子まで

【お電話】03-5986-1081 【メール】office@yoshikawano-namazu.com

なんてん cafe

なんてんcafeは鯰組の運営するカフェです。
「食卓から暮らしを考える」を方針に、おいしい
ご飯とくつろぎの空間を提供しています。住宅
のセールス等は一切ございませんので、ぜひ私
たちの仕事と雰囲気を偵察にお越し下さい。



人ソターネットぐ
鯰の小窓

を検索!

鯰組OFFICIAL WEB MAGAZINE
「鯰の小窓」開いています!
鯰組のスタッフがブログ形式で
日々更新中。家づくりの裏側やイ
ベント情報など盛り沢山です!
ぜひお立ち寄りください。

鯰日和編集後記

鯰展、たくさんの方にお越しいただきました、応援いただき、盛況の内に終わることができました。皆様どうもありがとうございました。なんてんcafeには新しい店長がやって来ました!日本酒に詳しい店長なので、夜の時間もますます面白くなつていく予感。鯰組・なんてんcafe共に、少しずつ進化しています。これからもどうぞよろしくおねがいいたします。

Facebookページもやっています。

こちらは 鯰 [facebook](#)
で検索ください!



TEL : 03-5986-1081 FAX : 03-5986-1082

メール : office@yoshikawano-namazu.com

住所 : 〒171-0043 東京都豊島区要町1-10-7

アクセス : 有楽町線・副都心線「要町」駅2番出口
(エレベーター) 徒歩1分

お問合せ